

【1頁より】

極めて問題のあるスキーム案は維持したまま、通常の民事再生に比べて弁済率を高くすることで、こうした批判にある程度答えようとしたものであることは確かだ。しかし、債権額が多くなるほど弁済率は低くなり、通常の民事再生の弁済率とあまり変わりなくなってしまう。しかも大阪屋経由の返品を栗田の平均返品率40%以上で出版社が入帳せざるを得なくなると、債権額の多い出版社ほどさらに損失が拡大することになる。

出版協としては、こうした再生計画案を一旦認めてしまえば、今後同じようなことがあると前例にされてしまうことを怖れる。したがって、この再生計画案には反対を表明する。そして大阪屋経由の返品入帳が新たな問題として浮上してこよう。

話は変わるが、別紙声明2にあるように、アマゾンにスチューデントポイントに加え、私たちが怖れていた、一般読者向けの抱き合わせのポイントサービスを拡大している。1%から最大10%という。スチューデントポイントと合わせると最大20%になるという。これではリアル書店はたまったものではない。書店をのぞいても、人がいない。書店はどんどん減り続けている。都内の山手線、中央線沿線駅でも書店がなくなったり、1店しかないような駅が増えてきている。

出版社や取次店が再販契約の遵守を毅然として求めていかないと、気が付いたときには書店を見つけるのも大変なような、砂漠になってしまう恐れさえある。その時は出版社も生きていけないことになるだろう。

出版社がポイントサービスを再販契約違反の値引きと判断した場合、小売店は該当社の商品の除外をしなければならない。アマゾンは再販契約に従い該当社の商品の除外を行う義務がある。現に楽天ブックは出版社の除外要請にに応じている。アマゾンは出版社のポイント除外要請に従うべきである。従わないのなら、出荷停止で臨むしかない。出版協会員社の小社緑風出版、水声社、晩成書房のアマゾンへの出荷停止もまもなく21カ月目にはいる。

アマゾンを怖れるあまり、出版社が手を拱いていれば出版業界は崩壊する。そう時間は残されていないのだ。それで良いのなら何をか言わんや、である。

●会員社一覧【2015年11月現在●88社】

【あ】	吉夏社	三一書房	創土社	にんげん出版	ほんの木
阿吽社	気天舎	三元社	草風館	【は】	【ま】
亜紀書房	弓箭書院	山文社	【た】	パイインターナショナル	明月堂書店
あけび書房	教育史料出版会	三陸書房	第三書館	白澤社	めこん
梓出版社	雲母書房	時潮社	大蔵出版	書籍工房 早山	木犀社
あつぷる出版	健学社	社会評論社	田畑書店	晩成書房	【や】
アーニ出版	健康と良い友だち社	松柏社	知泉書館	ひとなる書房	唯学書房
ありな書房	現代企画室	不知火書房	筑波書房	批評社	有志舎
一光社	現代書館	新宿書房	柘植書房新社	フィルムアート社	【ら】
インパクト出版会	現代人文社	新泉社	東京漫画社	風濤社	リベルタ出版
【か】	皓星社	水声社	東信堂	風媒社	緑風出版
海象社	合同出版	スタジオタッククリエイティブ	同時代社	ブロンズ新社	れんが書房新社
凱風社	コスモの本	青灯社	都政新報社	べりかん社	論創社
解放出版社	コモンズ	世界書院	【な】	北樹出版	
海鳴社	【さ】	せりか書房	七つ森書館	歩行社	
花伝社	桜井書店	千書房	南方新社	本の泉社	
雁思社	彩流社	創森社	日本経済評論社		

●出版協は一貫して「消費税総額表示」に反対です。本紙ではもちろん、従来どおり「本体価格」（私たちの主張では「定価」）での表示を継続しています。  
●これは、出版協加盟の出版社が「15年12月」に出版する予定の書籍・雑誌を紹介した「12月に出版する本」リストです。

●このリストから注文される場合、それぞれの出版社に直接、FAXかEメールを送って下さい。担当者名、希望条件、連絡方法も明記して下さい。

出版協BOOKSを利用される皆様へ